

西洋建築史第6回

欧州史の表舞台 - 戦争の建築

中島 智章

序.建築家と軍事

第1書(都市の防御)と第10書(都市攻撃・防御のための機械) 「都市を護る建築家」という理想像を示して全書をしめる
聖俗二分法からの展開 「三身分(祈る人、戦う人、働く人)」という考え方 「騎士:miles」と「貴族:nobilis」の一体化
十字軍(1096-1270)、百年戦争(1339-1453)、イタリア戦争(1494-1544)、ハプスブルク家とフランス王家の抗争(1521~)等

1.垂直式防御

主塔:donjon、胸壁:parapet+矢狭間、城壁(幕壁:courtine, curtain wall)+塔+堀、城門+跳ね橋+側塔(=châtelet)
10世紀末~:木造、土盛 切石を積んだ組積造 *聖堂建設、高度な組積造技術、石材加工技術、十分な石材供給
フランドル伯居城(ヘント)、ブイヨン城、ルーヴル城、バステューユ城、ヴァンセンヌ城(パリ)
教皇宮殿(アヴィニョン)、スフォルツァ城(ミラノ)、エステ城(フェッラーラ) *第1回十字軍(1096-1099)
アウレリアヌス帝の城壁(Roma) 廃墟となったインスラや水道橋の構造体を利用した総延長20kmの市壁、30m毎に塔
テオドシウス2世帝の城壁(Constantinopolis) 堀と塔を備えた二重城壁 Constantinos XI帝治下に陥落(1453)
カルカソンヌ、マーストリヒト、アーヘン、ナミュール、パンシュ、トゥルネ、ブリュッセル、メヘレン、ルーヴェン
煉瓦積(フランドル積とイギリス積)、石積(乱石積と正層積)、木造小屋組(ハーフティンバー、キングポスト・トラス)の技法

2.イタリア式築城術

Constantinopolisの陥落(1453)とフランス王Charles VIII, Louis XII, François I^{er}によるイタリア遠征(1494~)
平面:半月堡(demi-lune)、稜堡(bastion)、幕壁() *VAUBAN(1633-1707) vs Menno van COEHOORN(1641-1704)
断面:斜堤(glacis)、掩体道(chemin couvert)、外岸壁(contrescarpe)、堀(fossé)、内岸壁(escarpe)、胸壁(parapet)
パルマ、イーペル、リール、ナミュール、リエージュ、ルクセンブルク(リュクサンブール)、ベルフォール...函館五稜郭
軍事計画都市 敵対する勢力間の版図の変化 ex)ピレネー講和条約(1659年11月7日)とシャルルロワ要塞の建設
パルマ・ノーヴァ、フィリップヴィル、マリアンブール、シャルルロワ、ヌフ・ブリザック
「国境線」の出現 Vaubanの「四角い野原:pré carré」戦略と「鉄帯:ceinture de fer」戦略 都市を結んで防衛線を
ex)北東部国境 イーペル、メネン、リール、トゥルネ、ヴァランシエンヌ、モブージュ、フィリップヴィル、ディナン
サントメール、エール、アラス、ドゥエ、カンブレ、ランドルシー、マリアンブール、ロクロワ
Louis XIV治下のパリ非武装化(1670)...セルウィウスの城壁を撤去したカエサルの大業の再現を狙う
Napoléon I^{er}の国民皆兵 国境辺の攻囲戦 パリ再武装=l'enceinte Thiers(1841-1929)、34km x 142m、稜堡 x 94
Henri-Alexis BRIALMONT(1821-1903)の環状配置要塞群(リエージュ、ナミュール、アントウェルペン) 火砲の発達

試験の方針(予定)

少なくともレジュメと自筆ノート持込み可
参考書持込みの可否は検討中
1)レジュメだけ見て解ける問題 三択か?
2)板書をノートにとったり講義をきちんと聴いてないと
解けない問題 穴埋め問題
3)記述問題(イラストを描かせるかもしれない)

講義の掟3ヶ条(復習)

1)質問など講義に関係のあることを除いて
一切声を発してはならない。
2)講義時間開始より30分を越えてから
入室してはならない(原則)。
3)健康上の理由などやむをえぬ場合を除き
退室は全く認められない。